

① 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

・学習指導要領及び「令和の日本型学校教育」の構築を目指した中央教育審議会の答申（令和3年1月）及びそれに続く政府の議論等においては、ICTの活用と指導体制の整備による【個別最適な学び】と、これまでの日本型学校教育において重要視されてきた【協働的な学び】の一体化を拡充し、【主体的・対話的で深い学び】が求められている。

上記内容を踏まえて、本市では【学び合いのある授業】を軸とし、「友達と考えを共有したり比べたりしやくする」【考えの共有・比較】を推進するとともに、第2次中野市教育大綱の5つ柱の一つ【3.小中学校教育の充実】を実現するため、1人1台端末を効果的に利用し、児童生徒1人1人の実態に応じた学びを目指す。

② GIGAスクール構想第1期の総括について

・国のGIGAスクール構想を踏まえ、令和2年度に児童生徒用の端末、3700台の整備を行い、学習場面に応じた情報の収集・理解・共有ツール等の整備も行った。また、1人1台端末の持ち帰りを可能とし、長期休業中の課題やデジタルド

リアル等を用いた自主学習等、様々な場面での活用機会を提供し、児童生徒の学習意欲の向上及び学習環境整備に努めた。令和6年度実施の全国学力調査では、「授業でPC、タブレットを使用している」に小学校78%（全国76%）中学校94%（全国90%）「学習の中でPC、タブレット端末を利用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」に小学校90%（全国86%）中学校83%（全国80%）と回答している。

・本市の目指す姿である学び合いの授業から「友達との考えを共有・比較」するためクラウド上の同時共同編集ツールの活用を行い、多様な考えを参照し、自分の考えをよりよい考え方に更新する授業を展開している事例がある。児童生徒用の端末の活用について、学校単位で研究会を立ち上げ、よりよい活用方法を模索するとともに、児童生徒にあった個別最適な学びを推進してきた。しかしながら令和6年度実施の全国学力調査では、「PC、タブレットなどのICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」に対し小学校80%（全国79%）中学校77%（全国78%）「PC、タブレットなどのICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」が小学校88%（全国87%）中学校77%（全国86%）に留まっている。

・不登校傾向のある児童生徒や、教室で授業を受けにくいと感じている児童生徒が、教室で授業を受けているのと同様に授業が受けられるよう、ICT 機器を活用したりリモート授業を行った例がある。不登校傾向にある児童生徒や感染症等による出席停止など、様々な事情により教室で学ぶことのできない児童生徒に対しても、学びを止めない重要なツールとなっている。

③1人1台端末の利活用方策

・GIGA スクール構想第1期の総括を踏まえて、【学び合いのある授業】や第2次中野市教育大綱の5つ柱の一つ【3.小中学校教育の充実】を実現するため、1人1台端末を効果的に利用し、各校の教員がICT機器の利活用、指導力をさらに向上できるよう、ICTに係る研修会を定期的に行う。

また GIGA スクール推進校の利活用情報を積極的に取り入れることや、ICT機器に造詣が深く、専門的な知識を有するICT支援員を配置し、ICT活用の各種支援や授業実践事例等の蓄積、情報収集を行う。

・児童生徒用端末の持ち帰りについて、中学校では日常化しているが、小学校では持ち帰りに消極的な学校が見られたため、持ち帰る際の規則の作成や、利活用

方法など各学校に支援、啓発を行う。

・ICTを活用した【主体的・対話的で深い学び】【考えの共有・比較】の実現に向け、すでに導入しているデジタル教科書等のICT機器使用に係るクラウドサービス、アプリ等の使い方を見直し、授業等で児童生徒同士がやりとりする場面や自分の考えをまとめ、発表、表現できるよう課題の洗い出しなどを行い、具体的な活用方法について、学校と連携を図りながら検討し、学校教育の質の向上を図る。